

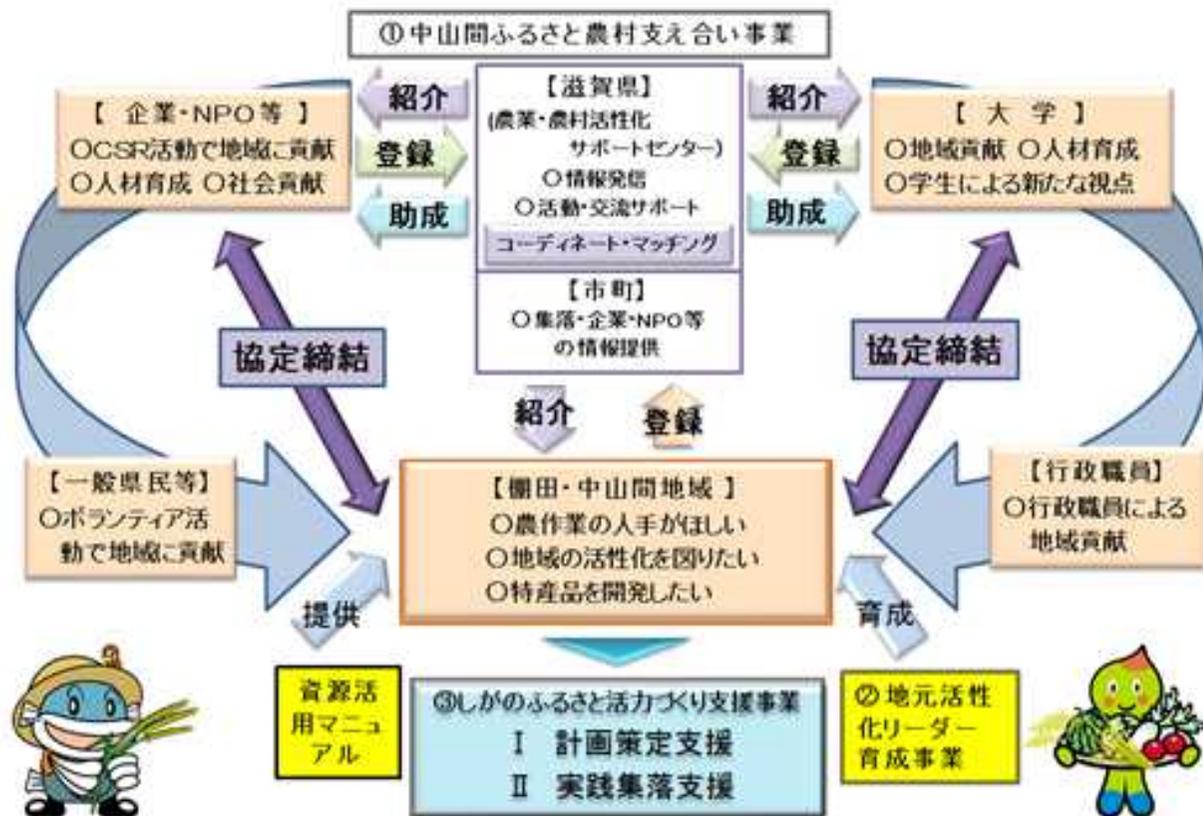
多様な主体との連携による 地域の活性化について

～「しがのふるさと支え合いプロジェクト」
「棚田地域の総合保全対策」
平成30年度の取り組み～



しがのふるさと支え合いプロジェクト

しがのふるさと支え合いプロジェクト



① 中山間ふるさとと農村支え合い事業

企業、大学等と集落のマッチング、支援体制整備他

集落と企業や大学等のニーズの把握、マッチングや資源活用マニュアルの作成等



マッチングの検討

企業、大学、NPO等支援

3年以上継続して集落と協働活動を行う企業や大学、NPO等に対し初動的経費を補助(初年度のみ)



集落との協働活動への支援

② 地元活性化リーダー育成事業

集落や地域を牽引するリーダーやサポーターの育成を図る研修会を開催



優良事例・先進地事例研修

③ しがのふるさとと活力づくり支援事業

計画策定支援

活性化に向けた話し合い、先進地視察、活性化計画の作成等に対し補助



活性化計画の作成(ワークショップ)

実践集落支援

多様な主体と連携または単独で活性化を図る取組に対し補助



伝統食を活かした料理の開発

平成30年度の取組

■しがのふるさと支え合いプロジェクト

- ニーズ調査の実施
- 事業紹介パンフレット作成
- 協定締結の状況
- 地域資源活用の手引き作成
- 地域活性化リーダー育成研修会
- 今後の取組

しがのふるさと支え合いプロジェクト ニーズ調査の実施

ニーズ調査の対象先

- 企業 …… 5
 - 大学 …… 3
 - NPO … 1
 - 集落 …… 1
- 計 10組織（7組織終了）

ニーズ調査で得られた意見

【企業・大学・NPO】

■集落と協定、パートナーシップを組む上で望む体制や条件

- 集落自身が活動の主体。住民がそれを理解し、課題解決に取り組む意思が必要。
- 参加には取組のメリット、明確な目標が必要。草刈り作業等の人手の確保だけでは対応が難しい。
- 自治会では役員が年次で変わる。別組織などで窓口担当者が固定していることが重要。
- キーマン、集落の意見をまとめられる人物が必須。
- キーマンだけでは行き詰まるので、それを支える複数の中核スタッフも必要。
- 学生に対しては現地交通のサポートや宿泊場所の確保（提供）なども必要。

ニーズ調査で得られた意見

■登録にあたり検討すべき事項や課題

- マッチングを探るために、お互いの「得たいもの、地域の売り」の情報が必要。
- 将来ビジョンと数値目標などの評価軸、そして成果の共有。
- 取組の成果を出すために締結期間は最低3年間は必要。
- 3年以上の協定締結はハードルが高い。お試し体験を通して協定締結を検討できると助かる。途中で失敗すれば企業のイメージダウンとなる。
- 事業所に近い集落とのパートナーシップが理想的（お世話になっている市町内で連携）。
- 安全対策などでお互いの役割、責任領域の明確化が必要。

ニーズ調査で得られた意見

■社員研修、人材育成（授業やサークル活動含）への活用は可能か？

- 既に農林業体験を新入社員や昇格者の研修に導入。社員同士の交流などに有効。
- 生産活動等で環境負荷をかけている企業では、「生物多様性保全」があると導入しやすい。
- 業務との関連で、地域資源の発掘、活用などを行う場が得られるので、人材育成の場として有効。
- 既に実践をしている。地域に学生が入り課題解決の経験を積むことは、地域、学生両者にとって成長発展につながり有効。

二一ズ調査で得られた意見

■協働活動を進める上での留意事項等

- 協働活動をまとめるには、先頭に立って采配を振り、連絡調整や役割分担を担うリーダーが必要。
- 連携の時には、お互いの役割と作業工程を決め、進捗を共有する。また、特定の団体が過負荷とならないように注意。
- ケガが発生しない作業内容に限定する。駐車場の確保や案内誘導時のトラブル発生の防止を検討。女性参加者への配慮も必要。
- 作業は2時間ほどが適当。参加者の負担が大きいと長く続かない（過度な負担は禁止）。余裕をもったスケジュールだと、参加者との交流が進みやすい。
- 誰かに喜ばれる、褒められる、世間に評価されることが、主催者のモチベーションアップにつながる。

ニーズ調査で得られた意見

■県や地方自治体に求めたいこと

- トラブルが生じた時に仲裁役が不可欠。第三者の立場としての相談役を県に担って欲しい。
- 締結団体が集まり情報交換、相互学習ができる場の設定を希望。
- サポートセンター担当者は固定で相談対応すべき。企業と集落のみで継続するのは難しいため永続的な支援が期待。
- 元気のない集落、地域にこそ助けが必要。サポートセンターのマッチング力が高まり、多くの相談が寄せられることに期待。
- 特別な強みを持たない集落の眠る資源を引き出すサポートに期待。
- 活動主体が企業の場合、マスコミや世間に取り上げられ難い。県が積極的にマスコミを呼んで活動をアピールして欲しい。

しがのふるさと支え合いプロジェクト

事業紹介パンフレット作成

■事業紹介パンフレットの作成

(構成案)

- 中山間地域の現状と
様々な主体の声
- 支え合いプロジェクト
の意義と説明
- 取組事例紹介

■Facebook・Instagram
の活用



しがのふるさと支え合いプロジェクト 協定締結の状況

■ 4 地区で協定による協働活動を実施中

No.	企業・大学・NPOなど	集落・地域	市町
1	滋賀文教短期大学	池原自治会（池原の自然と環境をまもる会）	長浜市
2	龍谷大学農学部 食料農業システム学科	百済寺 ブランド認証協議会	東近江市
3	社会福祉法人パレット・ミル	観音寺自治会	栗東市
4	トヨタ紡織滋賀株式会社	山女原棚田 ボランティア委員会	甲賀市

● 協定締結式

2019年 2月8日（金）知事室にて予定

立会人 滋賀県知事 三日月大造

滋賀文教
短期大学



長浜市余呉町
池原自治会

草刈

蕎麦打ち
体験

意見交換会



龍谷大学
農学部食料農業
システム学科



**百済寺ブランド
認証協議会**

- ・百済寺ブランドの認証と推進
- ・百済寺地域の都市農村交流活動の促進



**社会福祉法人
パレット・ミル**



**栗東市
観音寺集落**

農福連携

- ・農作物の栽培および販売
- ・集落の維持管理活動や行事への参加等



**トヨタ紡織
滋賀株式会社**



**甲賀市土山町
山女原集落**

棚田の保全

- ・ひまわりの種まき、くるみ植栽地の草刈り
- ・カブトムシの里の運営手伝い等



しがのふるさと支え合いプロジェクト

地域資源活用の手引き作成

■ 構成案

- 資源探しと賑わいづくり
- 手順と方法
- 代表的な資源の活用例
- 地域診断法の紹介
- 代表的な資源リスト

(作成中)

しがのふるさと支え合いプロジェクト

地域活性化リーダー育成研修会

地域	会場	第1回	第2回	講師
湖北	湖北合同庁舎	12月17日	1月9日	西村氏・前川氏
高島	高島合同庁舎	12月21日	1月15日	西村氏・原田氏
湖東	湖東合同庁舎	1月8日	1月18日	西村氏・前川氏
東近江	東近江同号庁舎	1月7日	1月25日	西村氏・前川氏
甲賀	甲賀合同庁舎	2月12日	2月20日	西村氏・清水氏
大津	大津市立木戸公民館	1月11日	1月22日	西村氏・清水氏

研修講師

株式会社農楽
代表取締役
西村俊昭氏

株式会社ロハス長浜
常務取締役
前川和彦氏

エーゼロ株式会社
高島しこぶち事業所長
清水安治氏

エーゼロ株式会社
高島しこぶち事業所
原田将氏

しがのふるさと支え合いプロジェクト

地域活性化リーダー育成研修会

- 第1回の内容(西村俊昭 氏)

移住定住促進と地域資源を活用した商品企画

≫ 研修内容

- 1. 地域活性化（地方創生）と取組の概要
- 2. 地域の現状と課題の整理
- 3. 地域資源の掘り出し方法
- 4. 地域資源の活用方法と計画づくり
移住定住促進
地域資源を活用した商品企画

しがのふるさと支え合いプロジェクト

地域活性化リーダー育成研修会

- 第2回の内容（前川和彦氏）

地域資源を活かして仕事をつくり、仕事を作って人を育てる

地域活性化は必要なのか？

1, 地域活性化をすすめるにあたって

- ①人の生き方
- ②仕事をつくる
- ③リーダーを育てる

2, 実践事例

- ④株式会社ロハス長浜の取り組み
- ⑤余呉地域づくり協議会の取り組み
- ⑥尾上自治会の取り組み
- ⑦その他各種団体の取り組み

しがのふるさと支え合いプロジェクト 地域活性化リーダー育成研修会

- 第2回の内容（原田将氏）
ローカルベンチャーで地域経済を醸す。
（地域資源を活かした事業と関係人口づくり）

ローカルベンチャーで地域経済を醸す	
目次	 地域経済を醸す
1. プロフィール(自己紹介)	
2. 会社・団体紹介	
・エーゼロ(株)とは？	
・「しこぶち」とは？	
・結びめとは？	
・活動組織の変遷	
3. 結びめの活動紹介	
4. 高島市での活動紹介	
5. 広瀬学区での活動紹介	
6. エーゼロ・高島の事業紹介	
7. 最後に	

しがのふるさと支え合いプロジェクト

今後の取組 ～ニーズ調査結果等の反映

お互いを知る・顔の見える関係の構築

【中山間地域】

- ・集落の維持
- ・農地・農業の保全
- ・地域資源の活用

【地域の課題】

コミュニティの持続、
地域の活性化

集落機能を維持したい

地域貢献に関連する活動を行いたい

【企業・大学・NPO】

- ・窓口の一本化
- ・リーダーの存在
- ・環境保全活動

【企業の課題】

産業発展だけでなく地域社会への貢献

「しがのふるさと支え合いプロジェクトによる協働活動」で課題の共有、解決を図る

しがのふるさと支え合いプロジェクト

今後の取組 ～ニーズ調査結果等の反映

反映策（案）①

【交流会の開催】

集落と多様な主体が一同に会し、それぞれが持つ知恵や資源、強みなどを意見交換を行う交流会の開催によりマッチングを図る。また、お互いの課題を認識し共に学ぶ場とすることおよび具体事例を知る機会とする。

- 主に集落と企業の課題を念頭に置いて具体的な活動事例を学ぶ講演
- ワークショップ形式のグループワークを行い、集落、企業の課題を知り、共有を通して協働の可能性を探る。

しがのふるさと支え合いプロジェクト

今後の取組 ～ニーズ調査結果等の反映

反映策（案）②

【参加（登録）申込書の改善】

現在の記入事項は希望する活動内容と地域のみ。
ニーズ調査等を踏まえ、マッチングに必要な情報を加える。

記載項目（案）

- 強みや売り
- 求める協働活動 等

しがのふるさと支え合いプロジェクト 参加(登録)申込書

年 月 日

企業・大学・NPO 法人他 団体名		
担 当 者 名		
担当者 連絡先	電話番号	
	住 所	〒
	メールアドレス	
活動への参加予定人数		
希望する農村集落等の活動 団体との協働活動内容 (時期、内容)		
(記載例) 春と秋に農村集落の方々と 農作業をしたい		
希望する活動地域 (複数回答可)		
HP への公開の可否		<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 否

企業・大学・NPO 法人他団体用

しがのふるさと支え合いプロジェクト 参加(登録)申込書

年 月 日

活 動 集 落 名		
担 当 者 名		
担当者 連絡先	電話番号	
	住 所	〒
	メールアドレス	
活動への参加予定人数		
希望する協働活動内容 (時期、内容)		
(記載例) 地域資源の活用方法につい て、外部の方と協議がした い。		
HP への公開の可否		<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 否

農村集落用



棚田保全ネットワーク推進事業

棚田保全ネットワーク推進事業

棚田保全活動や地域の魅力情報発信

■ 棚田地域保全活動

- 棚田ボランティアの受け入れ
今年度10地区で展開



学生の参加（ボランティアプログラム・ロコミ）

NO.	地区	市町	人口	高齢化率
1	畑	高島市	77	51
2	鶺川		175	36
3	森西		97	41
4	池原	長浜市	135	40
5	小泉	米原市	40	28
6	熊野	日野町	37	62
7	山女原	甲賀市	46	48
8	走井	栗東市	50	46
9	上仰木	大津市	—	—
10	平尾		—	—

2015国勢調査より

平成30年度の取組

■ 棚田保全ネットワーク推進事業

- 棚田保全活動や地域の魅力情報発信
- 広報パンフレットの作成
- 棚田地域交流・研修会の開催

上仰木地区棚田ボランティア (H30.11.18)



棚田保全ネットワーク推進事業

棚田保全活動や地域の魅力情報発信

■ 棚田ボランティアの情報発信

- 開催イベントの募集案内と取組の様子を発信



棚田保全ネットワーク推進事業

棚田保全活動や地域の魅力情報発信

■PR素材としてドローンによる空撮を実施



棚田保全ネットワーク推進事業

広報パンフレットの作成

■構成案

- 滋賀県の水田文化と農業の多面的機能
- 棚田ボランティア活動紹介
- 地域の見どころ
- みんなでつくる棚田の未来



(作成中)

棚田保全ネットワーク推進事業

棚田地域交流・研修会の開催

平成30年12月2日（日）開催

会場：仰木太鼓会館

（H11～H21：棚田シンポジウム
H23より本研修会を実施）

■ プログラム

- 上仰木地区の取り組み紹介
- 上仰木地区の現地見学
（歴史文化と棚田）
- 各地域の取り組み紹介
- 意見交換会（ワークショップ）
 - 昨年の交流会の振り返り
 - やりっぱなしで終わるのではなく
連続性のある研修会とする

しが棚田 ボランティア しが棚田地域交流・研修会	
2018年12月2日（日） 仰木太鼓会館	
◆プログラム◆	
【太鼓会館】	
10:30～10:35	開会
10:35～11:00	上仰木地区の取組紹介
【野外】	
11:00～12:00	上仰木地区内を現地見学（フィールド・トリップ）
【自治会館】	
12:00～12:45	昼食（地元で作られたお弁当を食べます） ★13時に開始できるよう太鼓会館へ移動します
【太鼓会館】	
13:00～13:45	棚田ボランティア実施地区の取組紹介
13:45～14:05	滋賀県の取組について （しがのふるさと支え合いプロジェクト他）
14:05～16:10	意見交換会 ～棚田の未来を探して～：みんなで棚田の未来を考えよう
16:10～16:15	閉会

棚田保全ネットワーク推進事業

棚田地域交流・研修会の開催

■ 上仰木地区の現地見学

山地神社・幸神社などの文化遺産

八王寺山の棚田

活動拠点のストローベイルハウス

自治会館で地元で作られたお弁当を
食べながら意見交換を実施



棚田保全ネットワーク推進事業

棚田地域交流・研修会の開催

■意見交換会で語られた夢

- もっと人に来て欲しい
(交流人口増加)
- 古くからの風景の復活、保全
- 風景や地域資源（山羊チーズ、クルミを活用）による商品開発。
- 自然に近い暮らしと食育の展開
- 高台に高級レストラン、料理屋の建設と地域の食材提供

来年度までに実施する目標を設定

■達成のための行動

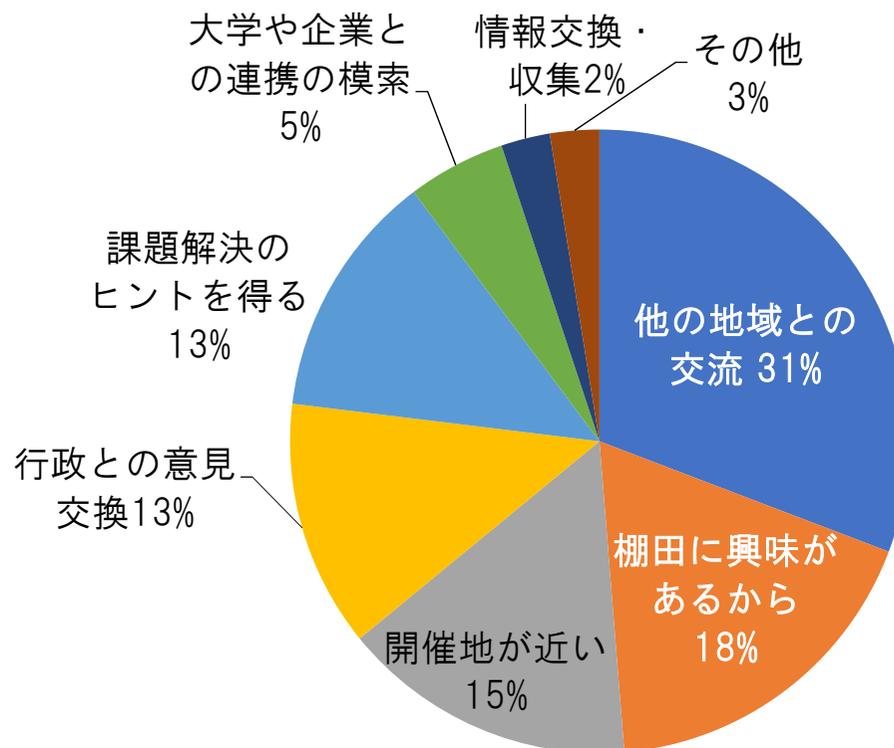
- 周困への声かけによる関係づくり
- 芸能人を呼んでアピール
- 早乙女衣装で農耕作業
- 棚田オーナー、泥んこ体験などの呼び込み展開
- ソバやクルミなど特産品の直売

**各地区で新しいこと、まだ取り組めていないことにチャレンジする！
(来年の地域交流・研修会で実施の報告を行う)**

棚田地域交流・研修会の開催

■ アンケートの結果

- 参加者28名中25名から回答（89%）
- 参加理由

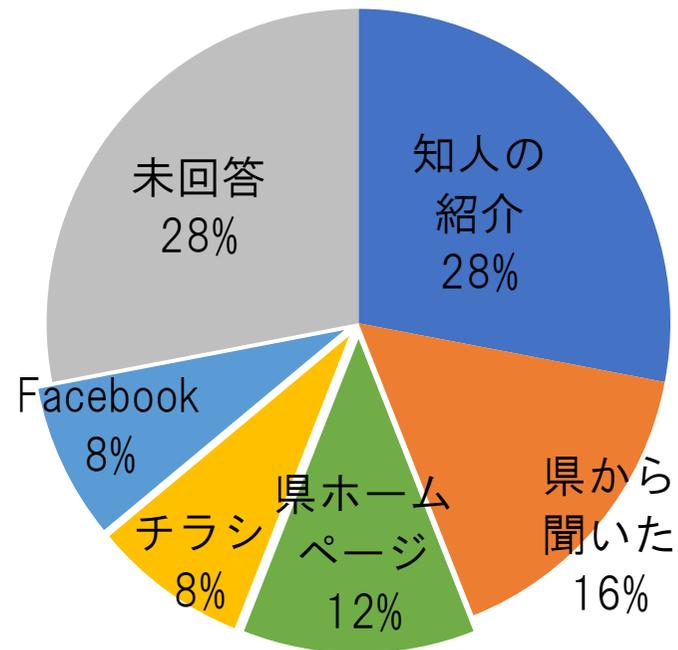


棚田保全ネットワーク推進事業

棚田地域交流・研修会の開催

■ アンケートの結果

- ・ 研修会の情報元

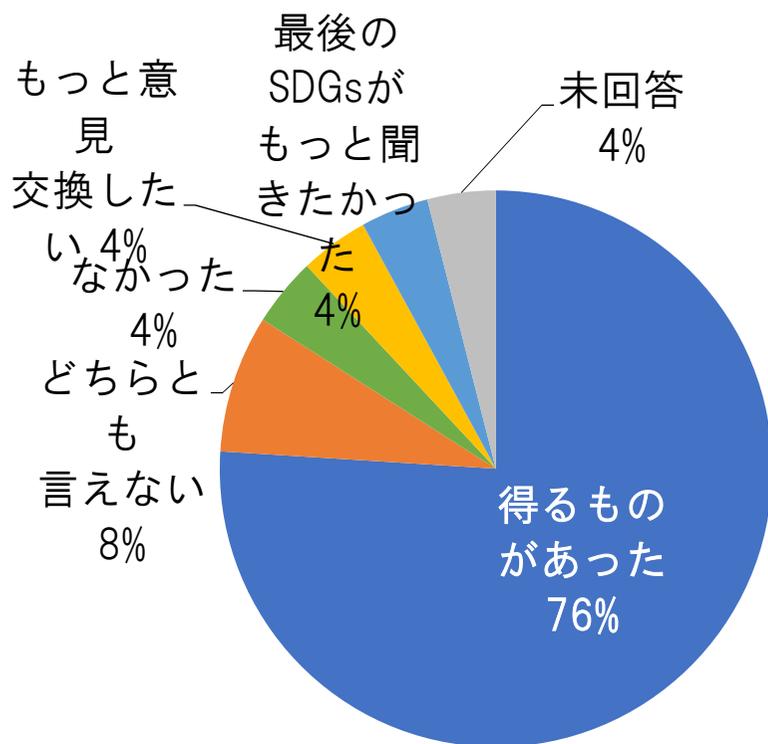


棚田保全ネットワーク推進事業

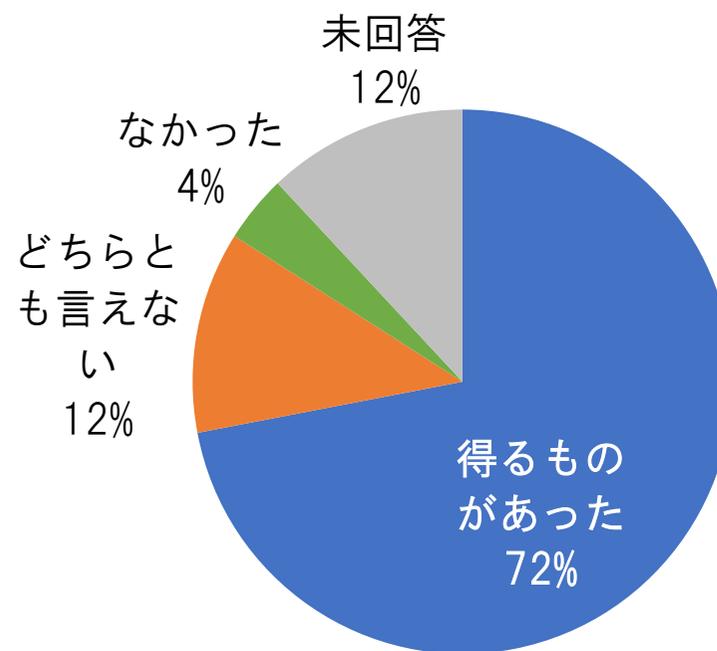
棚田地域交流・研修会の開催

■ アンケートの結果

交流会全体の感想



意見交換会の感想



棚田保全ネットワーク推進事業

棚田地域交流・研修会の開催

■ アンケートの結果

研修会で取り上げてほしいテーマ

- 棚田地域の持続について
- 棚田での農福連携の取組について
- ボランティア増への対応策について
(スタッフが大変・時間が足りない)
- 保全活動の後継者・担い手の育成について
- 保全活動のPRや活動展開の方法について
- 耕作放棄地の取扱い、対応について
- 保全活動で困ったことの解決法について